

☆世界

綿花需給

綿花生産、引き続き減少---2013/14

国際綿花諮問委員会（ICAC）によると、2013/14年度の世界の綿花生産は、綿花価格の下落、他の競合農作物の影響で前年比11%減の2,320万トになる見込み。これにより綿花生産は2期連続減産、ここ4年間の最小値を記録した。

地域別に見ると、大豆及び農作物との競争が激しい米国とトルコでは生産が激減、一方、中国、パキスタン、中央アジア、フランス圏アフリカでは減少が予測される。インドはイールド（単位当たりの収穫量）の回復があり微減にとどまる見通し。

世界の綿花のミル消費は世界経済回復の見通しから、引き続き緩やかな増加が予測される。ICACによると、世界の綿花ミル消費は南アジアの需要増に牽引されて3%増の2,420万トになる見通し。

世界の綿花貿易では、中国の輸入が減少するものの、中国以外の地域で貿易が拡大し全体の貿易額は780万トで横ばいの見通し。

世界の綿花在庫は過去3年間連続で増加し、2013年末は1,660万トという記録的水準に達したが、2014年末は6%減の1,560万トになる見込みで、これは中国以外の地域によるものと予測される。

主に中国の備蓄政策によって、世界の綿花供給の短期間の在庫減見通しは不確実である。中国政府は過去14か月で700万ト余りの綿花を備蓄しており、2013年3月末まで更に増加する見通しだが、それ以降の備蓄は不透明である。中国の政策如何で、綿花価格は変動する可能性がある。

世界の綿花需給見通し

(100万ト)

	2011/12	2012/13	2013/14
生産	27.284	26.079	23.19
消費	22.797	23.498	24.21
輸入	9.714	7.751	7.79
輸出	9.755	7.751	7.79
期末在庫	14.091	16.622	15.61
価格*	1.00	0.83**	

*Cotlook A インデックス (ドル/ポンド)

**2012年8~10月の平均価格

繊維景況

化繊業界の最近の景況

中国化繊業界の1～9月の業況は、全体的に安定を維持し、生産と投資も一定の伸びとなったが、マクロ経済環境の影響を受け、川下の需要が振るわず、多くの製品価格は下落する一方で、在庫は増加、化繊企業の利益も減少している。また、多くの化繊企業は将来の見通しに懸念を抱いているという。中国化繊工業協会の端小平会長は、2012年の化繊業界の収益減少について過剰に心配する必要はないと述べている。

2012年1～9月の化繊生産は前年同期比11.9%増の2,835万ト、伸び率は前年同期を4.12ポイント下回った。そのうち、レーヨン短繊維、ポリプロピレン、ナイロンの生産量は大きく伸びたが、ポリエステル生産量の伸び率は1桁台にとどまっている。1～9月の化繊業界の稼働率は基本的に良好で、多くの素材の稼働率は前年同期の水準を上回るケースもあった。端会長は、化繊生産は、引続き高い成長段階にあり、内外の綿花価格差によって一部の綿紡企業が化繊を選択しているケースもあると分析している。

中国の2012年の綿花価格は相対的に安定しているが、中国政府の綿花備蓄政策によって、内外価格差は5,000元/ト（8セント/kg）とこれまでになく大きく、この価格差は川下繊維企業の大きな問題となっている。端会長によると、国内の綿花価格が国際価格より高いため、中国の綿糸・綿製品の国際市場での競争力が失われており、内外価格差が5,000元/トに達すると、多くの企業は綿花から化繊にシフトするという。また、綿花価格が25,000元/ト（4ドル/kg）を超えると、その上昇は化繊の価格に波及するという。2012年は、綿花価格による化繊市場の牽引は弱まったが、下支えをしている状況であるという。

2012年1～8月の化繊業界の平均生産販売率は95.69%、前年同期を2.13ポイント下回った。レーヨン、ナイロン、ポリエステルの主要品種はいずれも前年同期を下回った。端会長によると、2012年に入り、川下需要の低迷から、産業チェーンの各段階で在庫が増加、その在庫が川上に波及し、2012年6月末には、化繊主要品種の在庫は年初来の高水準に達した。その後、7～8月は在庫は減少したが、9月以降は在庫が増加している。

2012年1～8月の化繊川下製品の生産は、紡績糸、織物、タイヤコードなどの伸びは前年同期と比べて鈍化したが、不織布は19.79%増と、前年同期より7.95ポイント伸びが加速した。端会長は、今後5～10年、不織布は化繊消費の中で最も成長する分野になるとの見通しを示している。

2012年上半期の化繊輸出は前年同期比7.9%減となった。端会長によると、9月単月ではプラス成長に回復したものの2012年年間の化繊輸出は国際市場の低迷を反映し減少する見通しである。

2012年1～8月の化繊業界の利益総額は前年同期比51.7%減の98.17億元であった。端会長によると、数字的には利益は減少しているが、2011年の高い基数が基であり、実際はそれほどひどくないという。2010～2011年の化繊業界は、ここ20年で最高の高収益で、利益率は7.16%に達していた。そのため、現在の利益の落ち込みについて過剰に心配する必要はないという。端会長は、化繊業界が2012年に失った利益のうち、価格下落による損失の比率が多く、化繊の通常の加工利益は依然安定していると分析している。合繊価格と原油価格は関連が強いが、2012年5～6月、原油価格は下落し、合繊製品価格はコストの下支えを失い、また川下需要も低迷したことで、合繊価格は急速に下落した。端会長によると、化繊企業は通常7～20日の原料在庫を維持する必要があるが、原料価格と製品価格の下落が続いたことで、原料在庫の損失分が約50億元であったという。

2012年1～9月の化繊業界の投資額は前年同期比21.5%増の643.46億元、その伸びは前年同期比19.02ポイント落ちた。端会長は、伸びは落ちたものの、化繊業界への新規生産能力の影響は大きいと分析し、化繊業界の生産能力拡大を、「急速かつ偏った発展、構造的・段階的に過剰」と分析している。製品の同質化が深刻である一方、差別化、機能性製品の発展は遅れており、今後化繊業界は同質化を制限し、差別化を奨励しなくてはならないとコメントする。化繊生産能力は2012年末で3,700万ト、2013年末に4,100万トに達する見込みであるが、これは中国化繊業界が発表した「第12次五か年」における目標であり、化繊業界は3年で5年の発展を達成してしまう可能性がある。そのため、端会長は、増設のスピードを適切に緩め、特にポリエステル投資過熱を抑制するよう呼びかけている。

以上